

## 5 アンケート調査結果から見た子育てに関する実態と意向

---

### ■アンケート調査結果から見る、子ども・子育てに関する現状と意向

#### アンケート調査の目的について

「第2期子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けて、町民の子育て支援に関する生活実態や要望・意見などを把握するために、「上松町子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施しました。

---

#### 調査設計

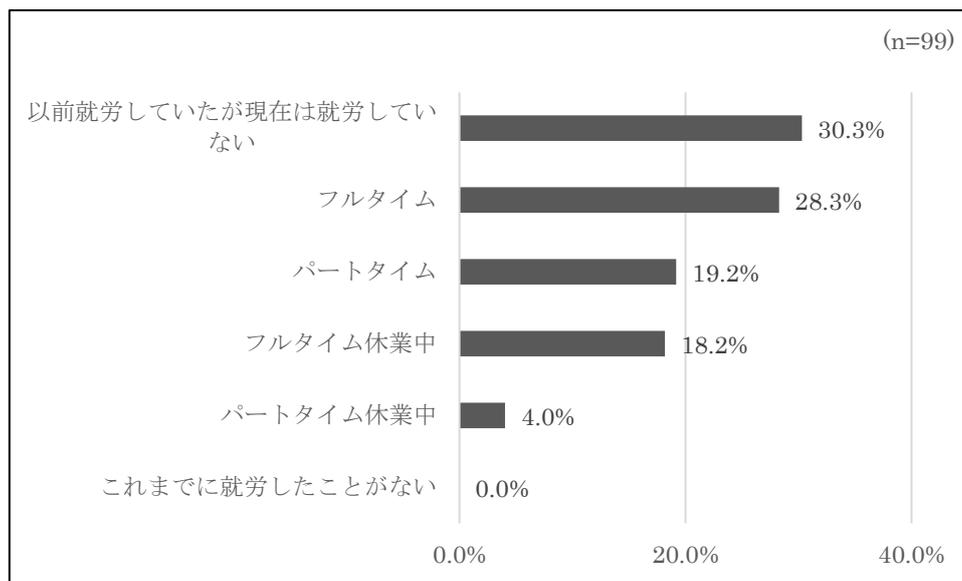
- (1) 調査地域 上松町内
  - (2) 調査対象 就学前児童調査 町内に在住の未就学児童の保護者  
小学生児童調査 町内に在住の小学1～4年生の保護者
  - (3) 回収数 就学前児童調査 99人（回収率57%）  
小学生児童調査 51人（回収率52%）
  - (4) 調査方法 郵送による配布・回収
  - (5) 調査時期 平成31年2月～3月
  - (6) グラフの表記に（n）が出てきますが、該当する質問に対しての回答数のことです。
  - (7) グラフの選択肢については、表記のため、文字を省略している場合があります。
-

## 【就学前児童調査】

### (1) 就労状況について

#### ■ 母親の就労状況

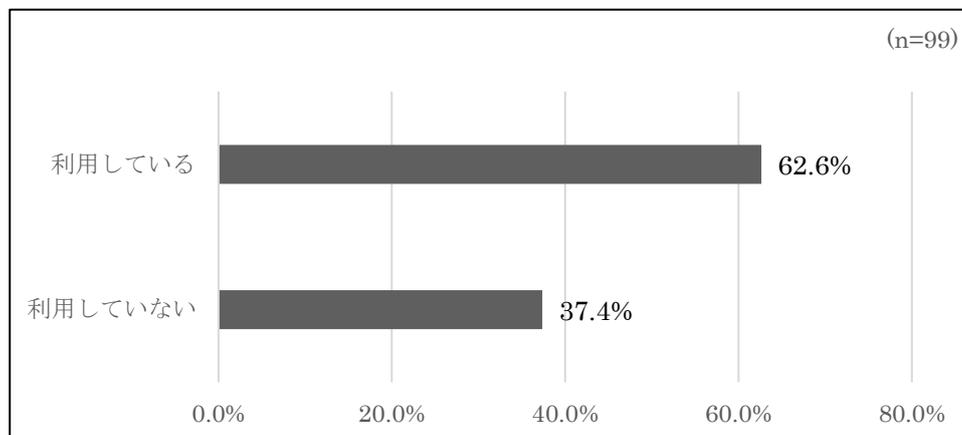
母親の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が30.3%と最も多くなっています。また、父親の就労状況については、「就労している（フルタイム、産休・育休・介護休業中は含まない）」が98%と大半を占めています。



### (2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

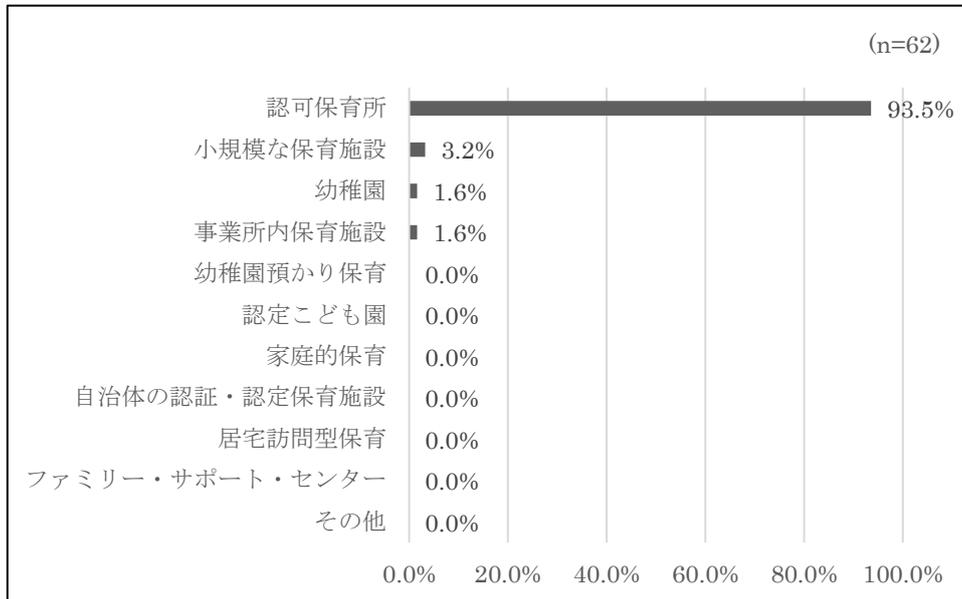
#### ■ 現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用しているか

「利用している」が62.6%と最も多く、次いで「利用していない」が37.4%の順となっています。



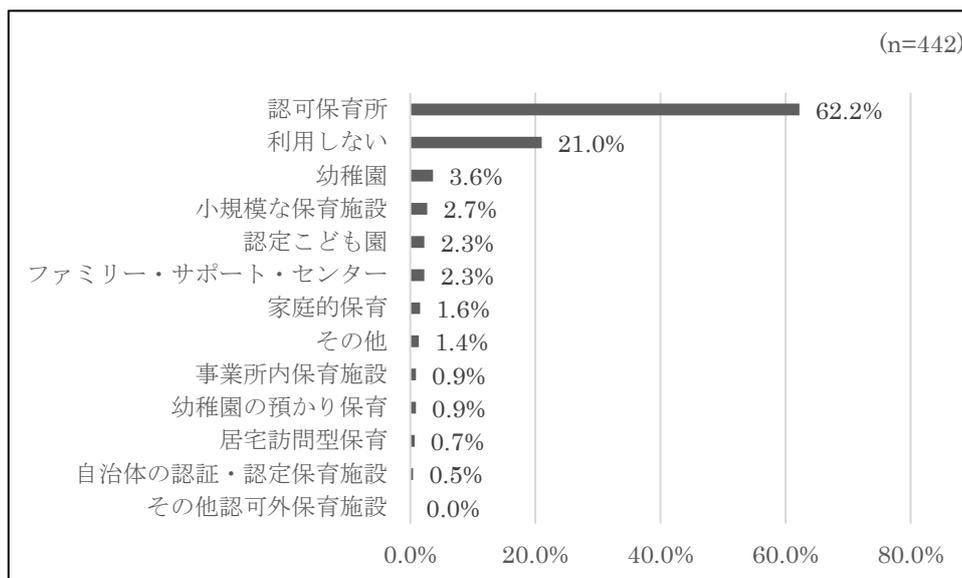
■平日、どのような教育・保育事業を利用しているか

現在定期的にご利用している教育・保育事業については、「認可保育所（保育園）」が93.5%と9割以上を占め、認可保育所のニーズが高いことが分かります。



■定期的に利用したい教育・保育事業

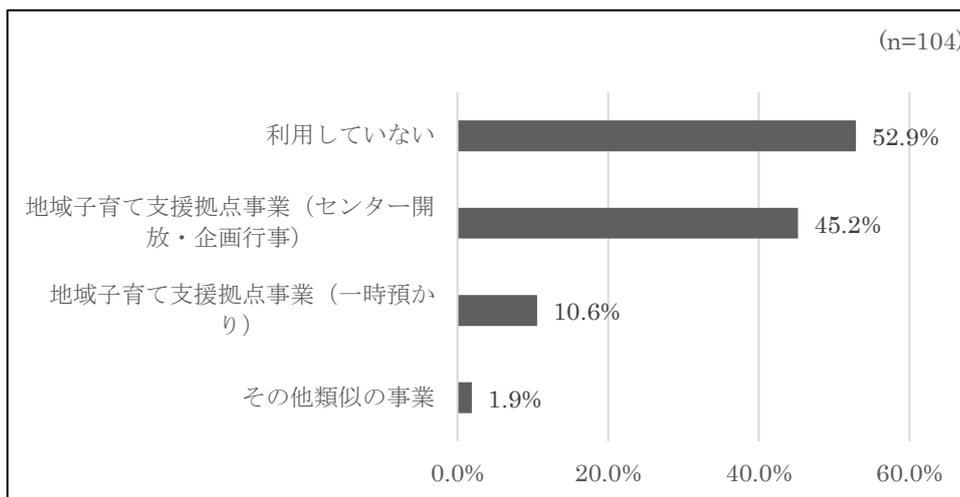
今後定期的に利用したい教育・保育事業については、「認可保育所（保育園）」が62.2%と最も多く、次いで「利用しない」が21.0%、「幼稚園」が3.6%の順となっています。そのほかの事業も、少数ではありますが利用ニーズがあることがうかがえます。



### (3) 地域の子育て支援事業の利用状況について

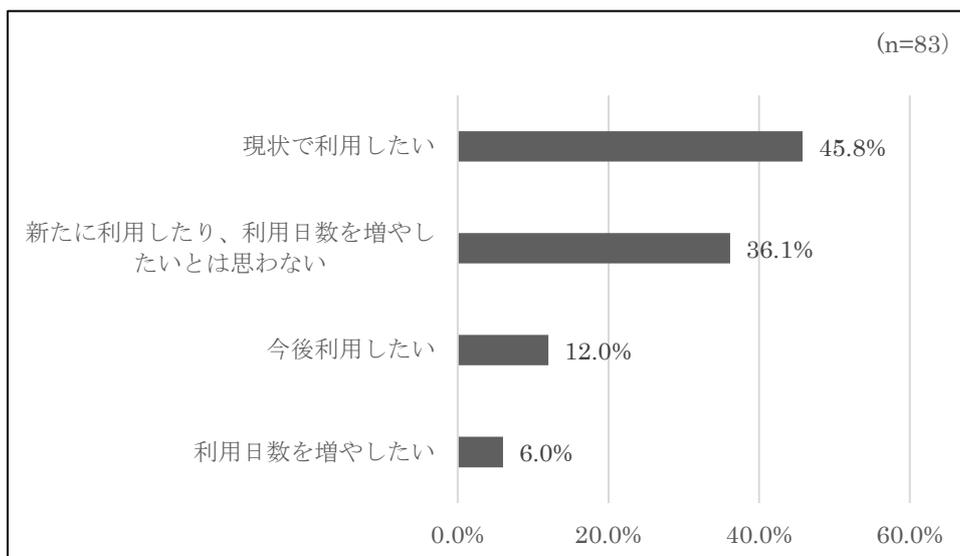
#### ■現在、地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）を利用しているか

地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の利用の有無については、「利用していない」が52.9%と半数強を占め、次いで「子育て支援センターの開放・企画行事」が45.2%、「子育て支援センターの一時預かり」が10.6%の順となっています。



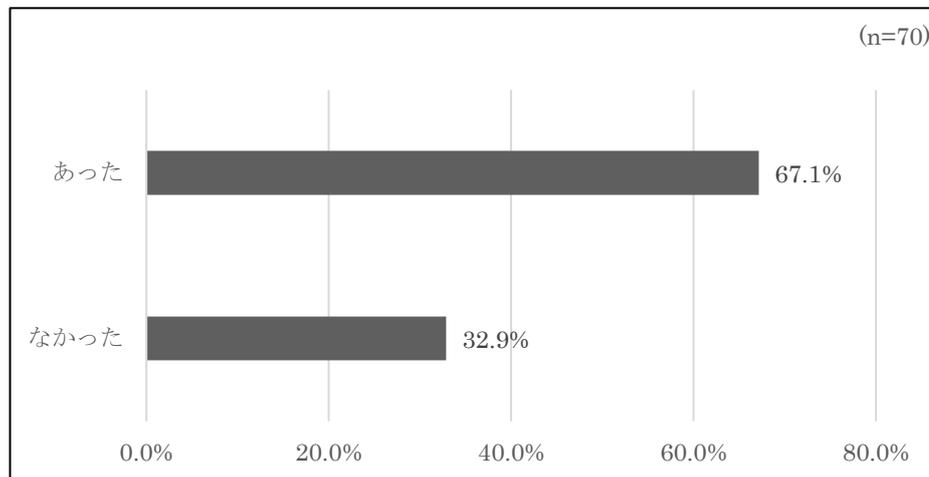
#### ■地域子育て支援拠点事業を、今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思うか

「現状のまま利用したい」が45.8%と最も多く、次いで「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が36.1%、「今後利用したい」が12.0%、の順となっています。



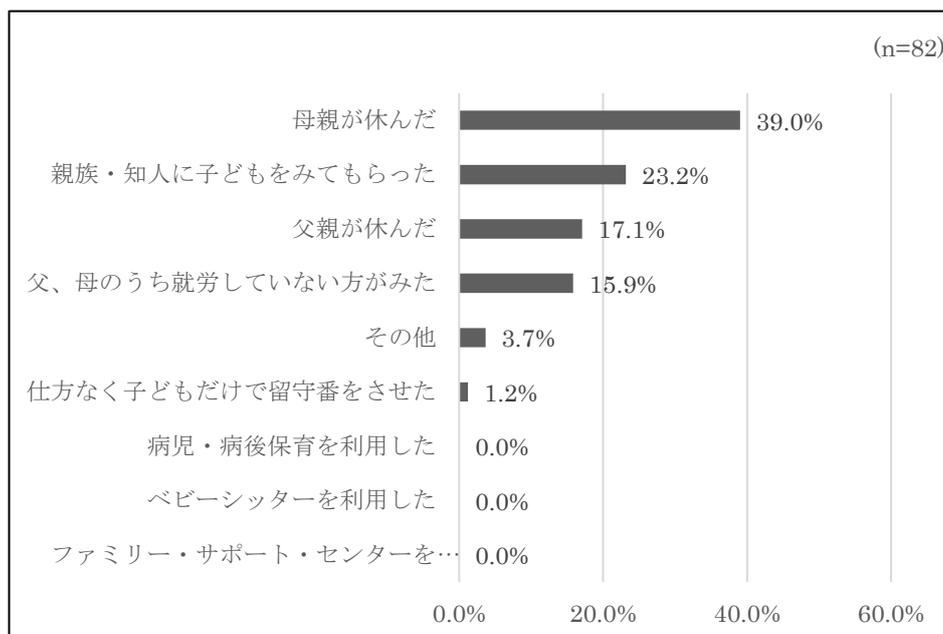
■お子さんが病気やケガで平日の教育・保育事業が利用できなかったことはあったか

この1年間に子どもが病気やケガで平日の教育・保育事業が利用できなかったことはあったかについては、「あった」が67.1%と最も多く、「なかった」の32.9%を大きく上回る結果となっています。



■お子さんが病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった場合、この1年間に行った対処方法

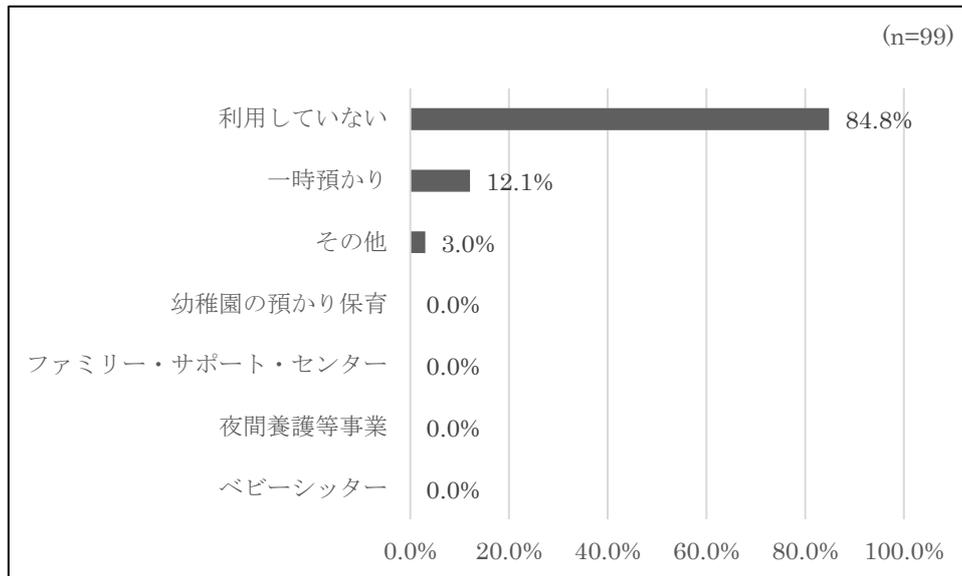
この1年間に子どもが病気やケガの際に行った対処方法については、「母親が休んだ」が39.0%と最も多く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が23.2%、「父親が休んだ」が17.1%の順となっています。



#### (4) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

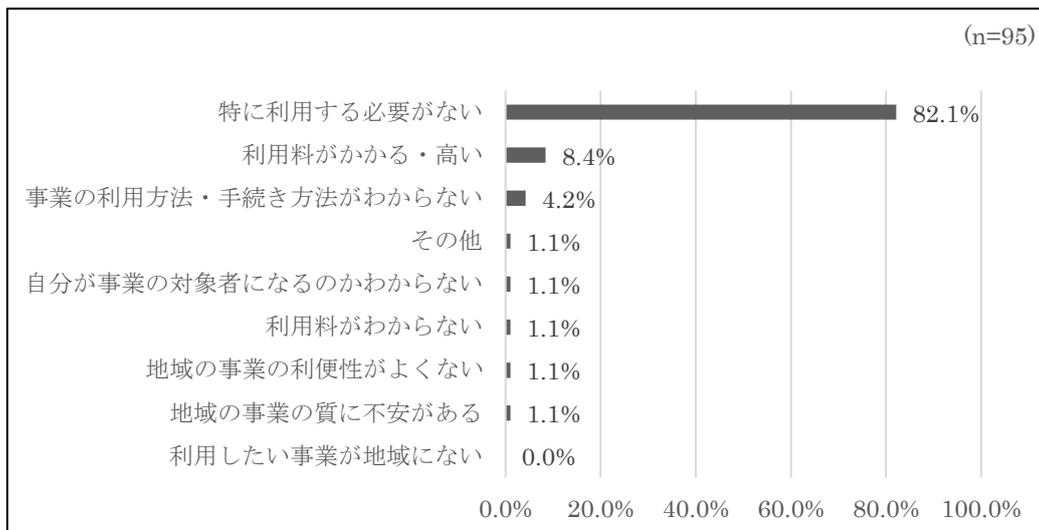
##### ■ 不定期に利用している教育・保育事業

「利用していない」が84.8%と最も多く、次いで「一時預かり」が12.1%、「その他」が3.0%の順となっています。



##### ■ 一時預かり事業を利用していない理由

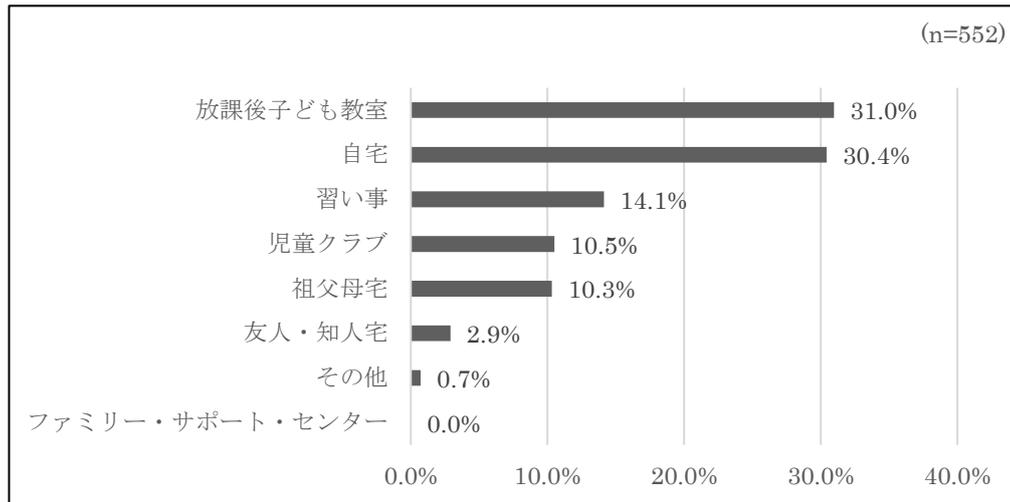
「特に利用する必要がない」が82.1%と最も多く、次いで「利用料がかかる・高い」が8.4%、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が4.2%の順となっています。



## (5) 小学校入学後の放課後の過ごし方について

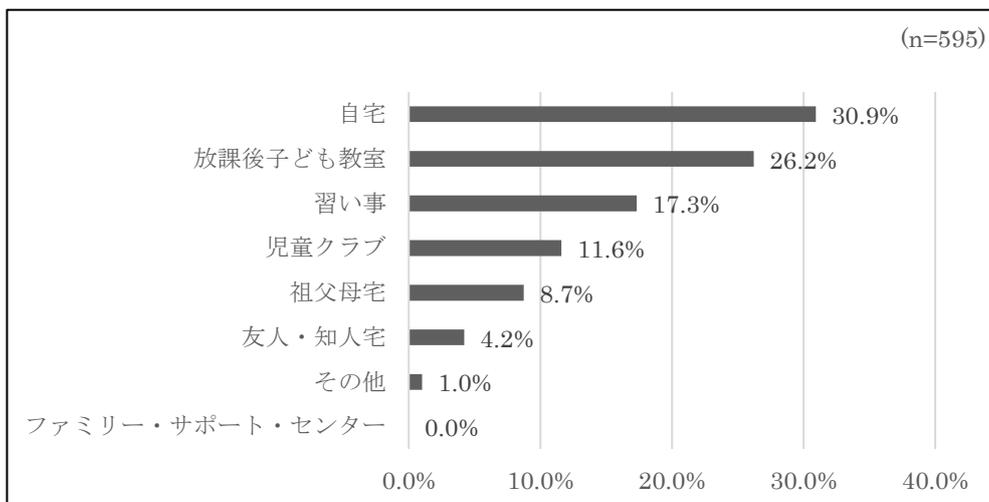
### ■お子さんが低学年のうち、どのような場所で放課後の時間を過ごさせたいか

お子さんが低学年の間、放課後を過ごさせたい場所については、「放課後子ども教室（きっこう）」が 31.0%と最も多く、次いで「自宅」が 30.4%、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が 14.1%、「児童クラブ（おひさまクラブ）」が 10.5%の順となっています。



### ■お子さんが高学年になったら、どのような場所で放課後の時間を過ごさせたいか

お子さんが高学年になったら、放課後を過ごさせたい場所については、「自宅」が 30.9%と最も多く、次いで「放課後子ども教室（きっこう）」が 26.2%、習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が 17.3%、「児童クラブ（おひさまクラブ）」が 11.6%の順となっています。

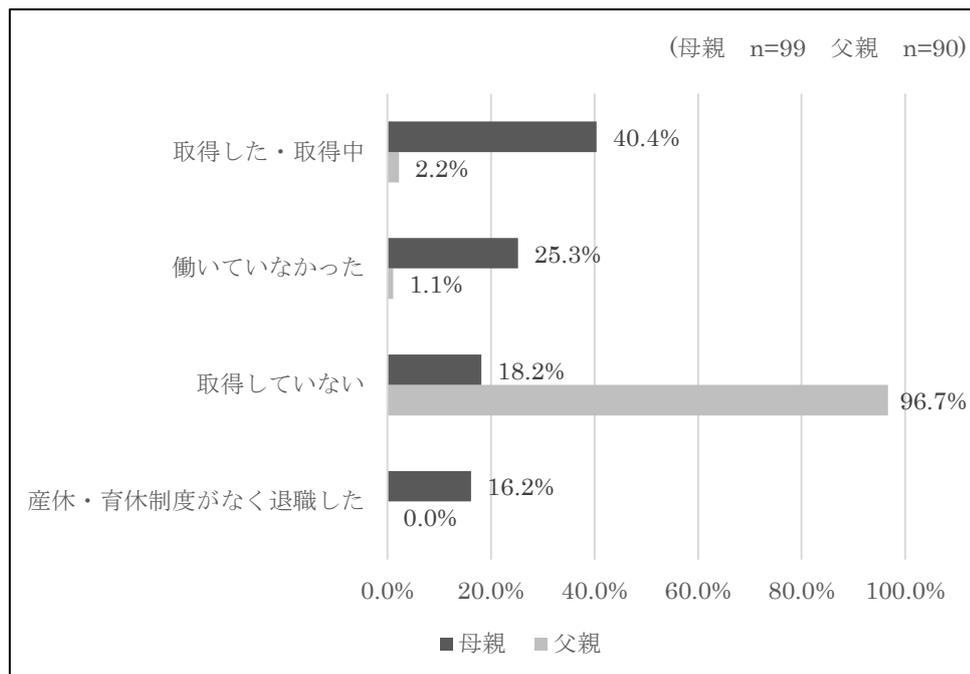


## (6) 育児休業の取得について

### ■ 育児休業を取得したか

母親に関しては、「取得した(取得中である)」が40.4%と最も多く、次いで「働いていなかった」が25.3%、「取得していない」が18.2%の順となっています。

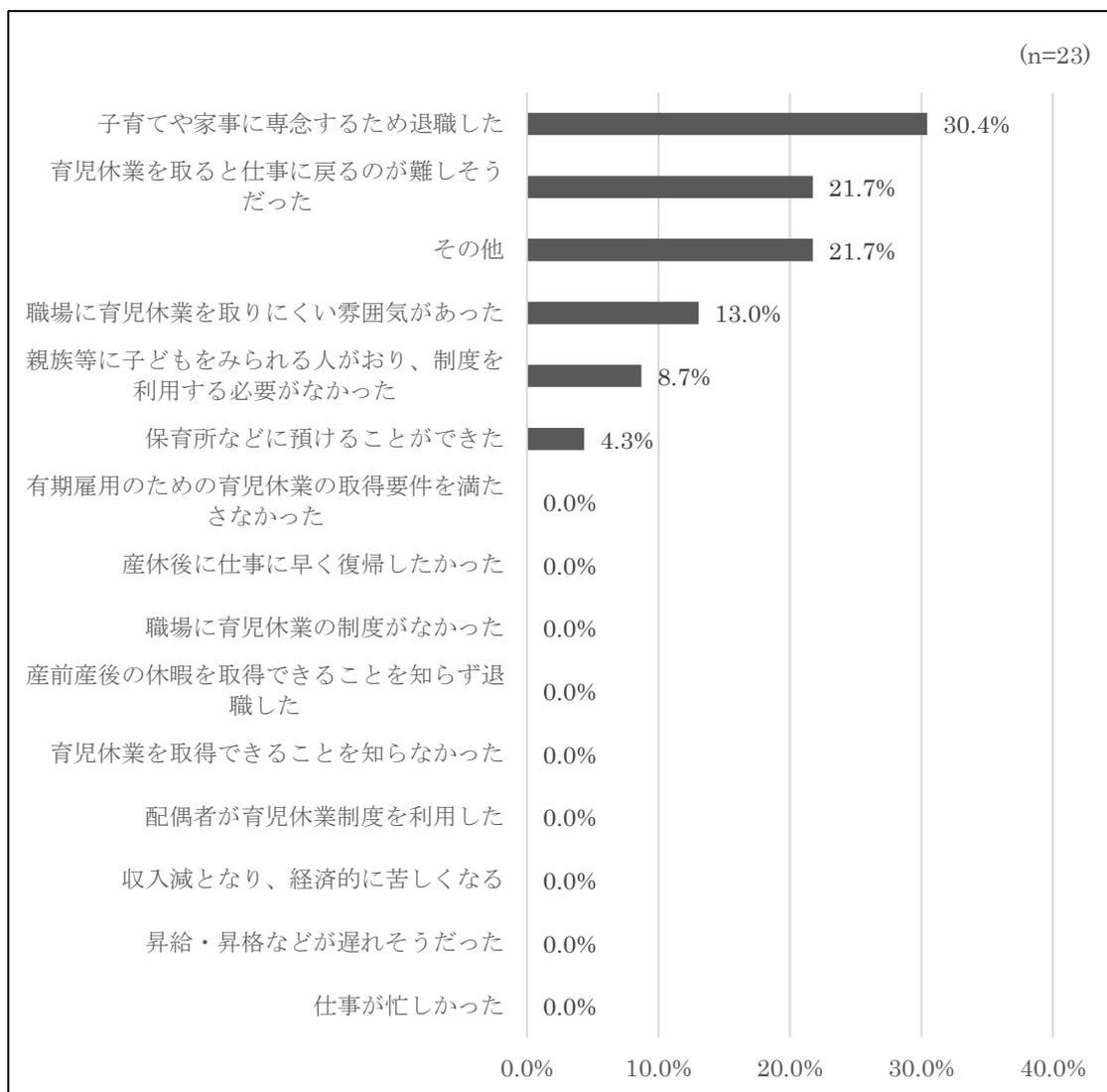
父親に関しては、「取得していない」が96.7%と最も多く、9割を占めています。



■育児休業を取得しなかった理由（母親）

母親の育児休業を取得しなかった理由については、「子育てや家事に専念するため退職した」が30.4%と最も多く、次いで「育児休業を取ると仕事に戻るのが難しそうだった」、「その他」がそれぞれ21.7%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」13.0%の順となっています。

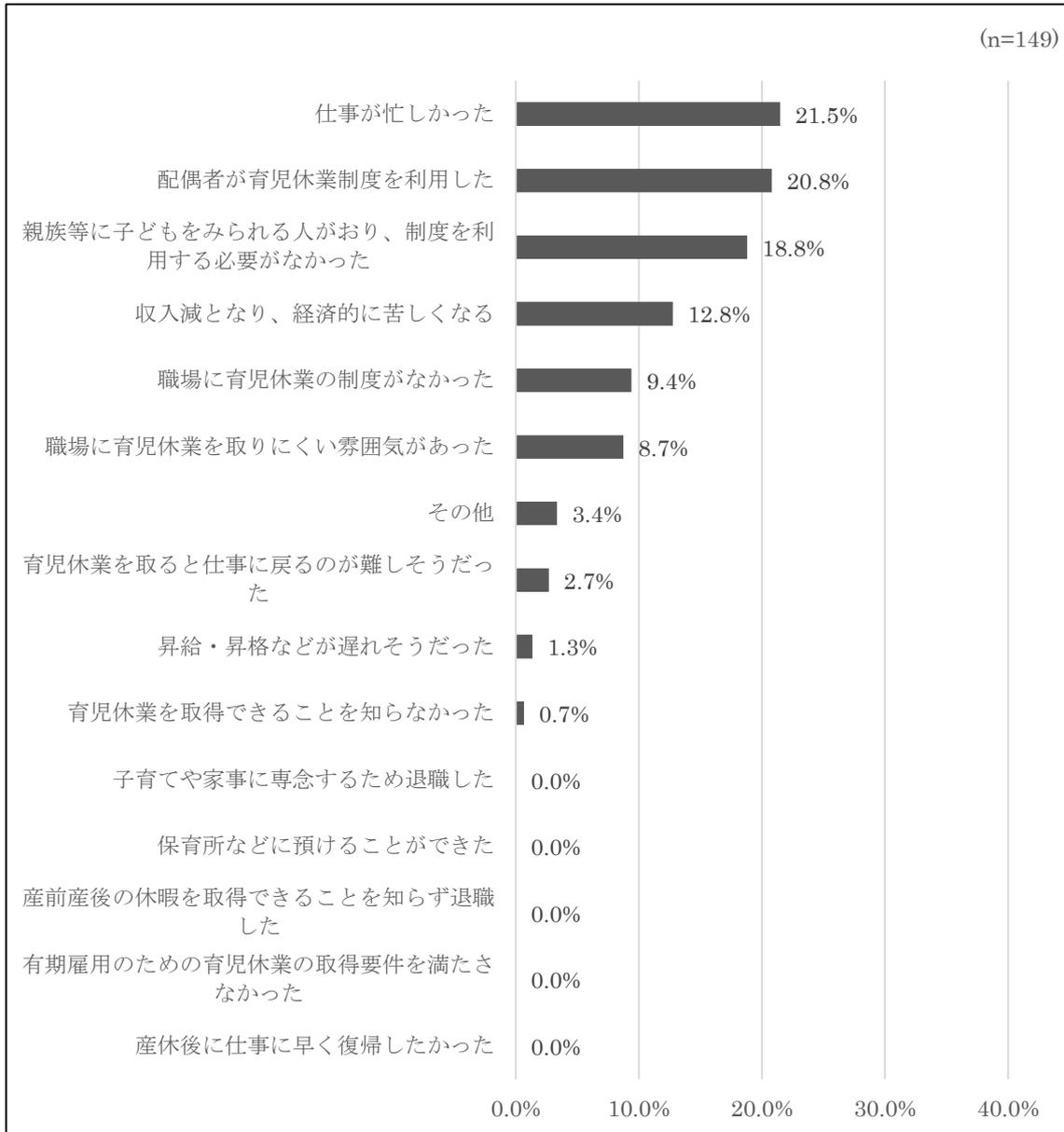
育児休業については、職場で育児休業を取りにくい雰囲気があったり、制度自体がない場合もあり、企業等に育児休業についての理解と、制度への取り組みを働きかける必要があります。



### ■育児休業を取得しなかった理由（父親）

父親の育児休業を取得しなかった理由については、「仕事が忙しかった」が21.5%と最も多く、次いで「配偶者が育児休業制度を利用した」が20.8%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が18.8%の順となっています。

育児休業制度を取得できることを知らなかったという方もいることから、育児休業制度についてのさらなる周知を図る必要があります。



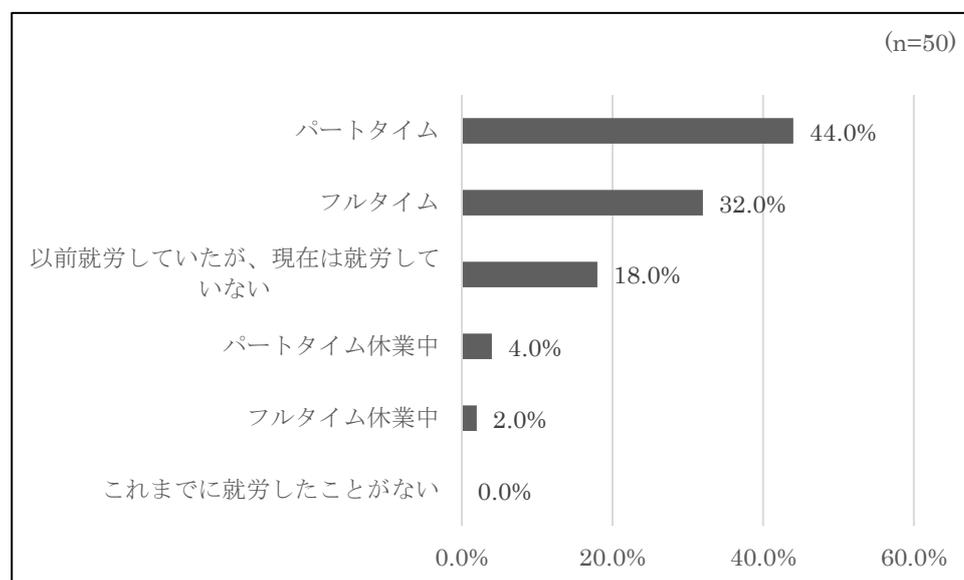
## 【小学校児童調査】

### (1)就労状況について

#### ■母親の就労状況

母親の就労状況については、「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が44.0%と最も多くなっています。

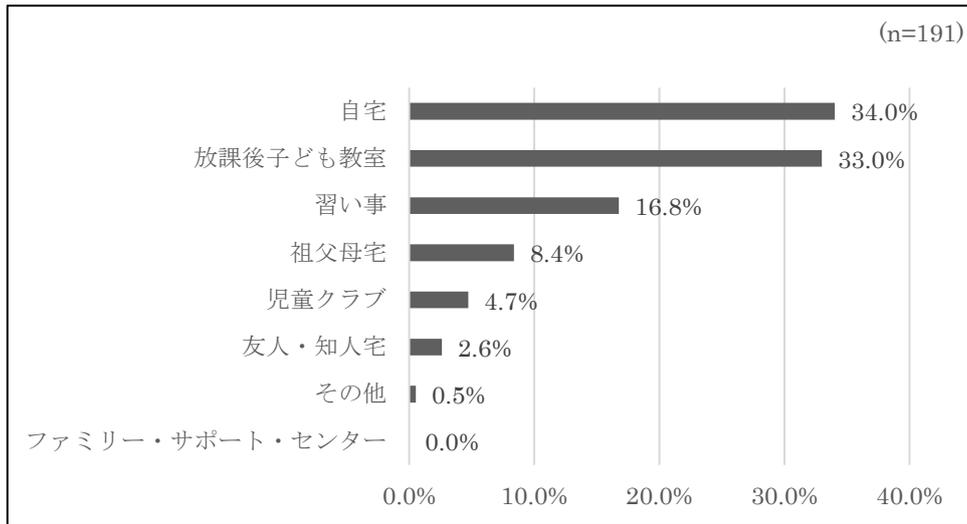
また、父親の就労状況については、「就労している（フルタイム、産休・育休・介護休業中は含まない）」が97.7%となっています。



## (2) お子さんの小学校入学後の放課後の過ごし方

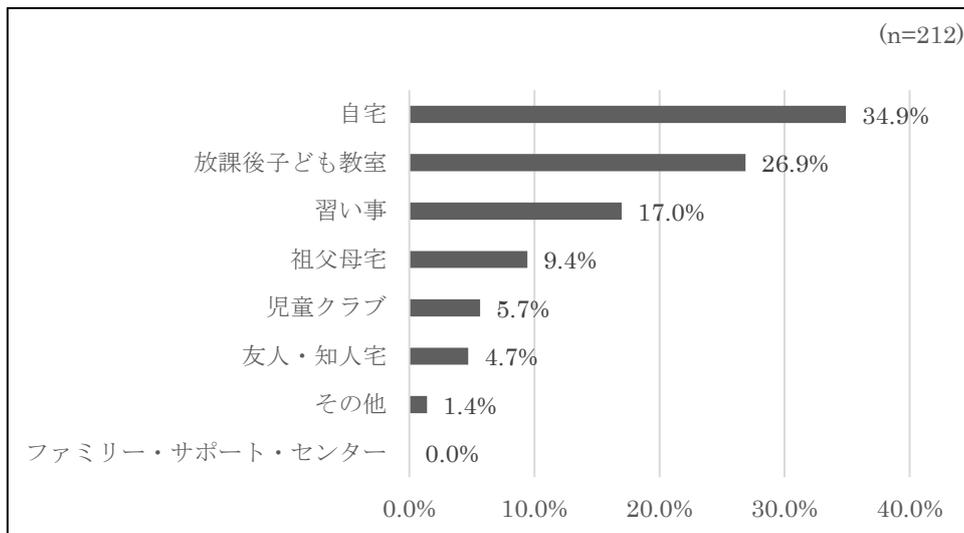
### ■お子さんが低学年のうち、どのような場所で放課後の時間を過ごさせたいか

お子さんが低学年の間、放課後を過ごさせたい場所については、「自宅」が34.0%と最も多く、次いで「放課後子ども教室（きっこう）」が33.0%、「習い事」が16.8%の順となっています。



### ■お子さんが高学年になったら、どのような場所で放課後の時間を過ごさせたいか

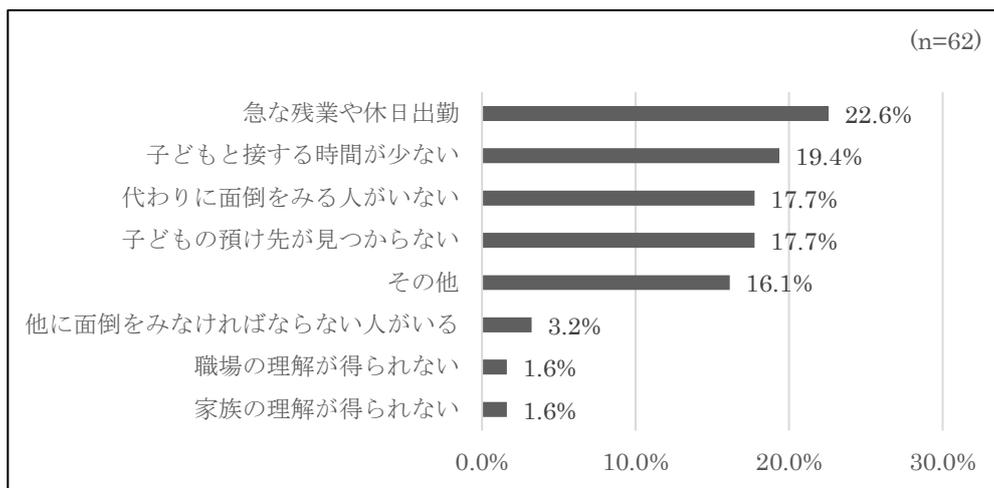
お子さんが高学年になったら、放課後を過ごさせたい場所については、「自宅」が34.9%と最も多く、次いで「放課後子ども教室（きっこう）」が26.9%、「習い事」が17.0%の順となっています。就学前調査、小学生調査の結果から、町では放課後子ども教室（きっこう）の利用ニーズが高いことがうかがえます。



### (3)仕事と子育ての両立について

#### ■仕事と子育てを両立させるうえで、困っていることは何か

仕事と子育てを両立させるうえで、困っていることは何かの問いについては、「急な残業や休日出勤」が22.6%と最も多く、次いで「子どもと接する時間が少ない」が19.4%、「代わりに面倒を見る人がいない」、「子どもの預け先が見つからない」が17.7%の順となっています。また、その他の意見としては、「もう少し働きたいが時間が取れない」、「平日は仕事、休日は子育てで家事が不十分になってしまう」などが挙げられています。



#### ■仕事と子育てについてどのように考えるか

仕事と子育てについてどのように考えるかの問いについては、「子育ても仕事も両立したい」が47.1%、最も多く、次いで「仕事もするが、なるべく子育てを優先したい」が45.1%と最も多くなっています。仕事も子育ても両方続けていきたい、と考えている方が多く、仕事と生活の双方の調和の実現を図るため、働き方の見直しの推進を含めた取り組みが必要です。

